

第 1 回高齢者施策推進委員会に対する質問・ご意見

	質問・ご意見	区の実施状況
1	<p>【議題 2 について】</p> <p>目標 2 の安心・見守り体制の拡充に関する添付書類に記載されている見守り団体や見守り事業者は、高齢者のみを対象として見守り活動を行っているのか。子どもの見守りと重層的に連携できると良い。</p>	<p>資料 2 - 1 P 6 の「安心・見守り体制の拡充」における「地域見守り活動団体」及び「協定締結事業者」は、高齢者を対象とした見守り活動を行っています。</p> <p>子どもの見守り活動とは趣旨や体制の相違から連携には課題がありますが、対象者にとらわれない重層的な見守りネットワークを充実させるなど、包括的な相談支援体制について検討していきたいと思っております。</p>
2	<p>【議題 3 について】</p> <p>調査 A、B の設問項目に「かかりつけ医師の有無」があると良い。主治医を持つことは介護予防や病気の早期発見につながり、主治医に対する高齢者の意識を確認できる。</p>	<p>調査 B については、国の調査であり、区独自の調査項目は入れない設計のため、調査 A のみ、設問項目に「かかりつけ医師の有無」を追加することとしました。</p>
3	<p>【議題 3 について】</p> <p>介護サービス事業所調査及び医療機関向け調査の回答率が低いので、ハガキによる督促だけでなく、各団体に回答の督促を行ってはどうか。</p>	<p>各団体への調査協力依頼を調査前に行うとともに、インターネット回答を導入し、回答方法の利便性を高めることで回答率の上昇につなげたいと考えています。その上で、未回答の団体には通知により督促を行います。</p>

	質問・ご意見	区の実施状況
4	<p>【議題3について】 調査項目の中に新型コロナウイルスワクチン接種状況についての項目を入れてはどうか。介護度や生活状況（在宅か施設入所）の違いで状況は異なるのではないか。新しい感染症に対する対応策の指標としても現状把握が必要ではないか。</p>	<p>調査Cに新型コロナウイルスワクチンの接種回数についての設問を追加します。介護度や住まいの種類とのクロス集計により、在宅生活者と施設入所者の接種率を比較します。</p>
5	<p>【議題3について】 介護度や身体状況によって行動しにくくなったことの把握及びそれに対する各方面のアプローチ案が出てくると思われる。在宅介護を受けている人は、寝たきりの場合、健康診断の体重測定などができず、自立できない人は車いすでの外出もままならないため選挙投票も難しい。施設入所者はこれらのことは出来ていると聞く。国や自治体は、在宅生活でもこれらの行動を可能にする方法を考えてほしい。</p>	<p>区では、40歳以上の区民を対象に年に一度、健(検)診を実施しており、在宅で介護を受けている方については、往診による健康診断を実施している医療機関を紹介しています。主治医が居宅で健康診断を行う際、体重測定が難しい場合は血液検査で栄養状態を確認するなど、目的に沿った身体的負担の少ない他の方法により実施することがあります。また、在宅で介護を受けている方の選挙投票については、要介護5の要介護者は郵便投票が可能であるとともに、介護保険サービスの一つである外出介助を必要に応じて利用することが可能です。</p> <p>令和元年度の調査結果（調査C問20）では、6割の人が自宅で暮らし続けたいと回答しており、様々なサービスを必要に応じて利用しながら在宅生活を継続できるよう、引き続きニーズを把握し、施策に反映していきます。</p>